

研究紀要

1 はじめに

本校の児童は、明るく素直であいさつや返事を元気にしっかりとすることができる。しかし、自分の気持ちが十分に伝えられずに友達とトラブルになったり、不登校傾向になったりする児童もいる。

そこで令和2年度は、児童が昨年度までの指導により培ってきた「SOSを出したり受け止めたりすることができる態度」の育成を図るとともに、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認められる人権感覚の育成」を目指していくことを加え、研修を進めた。その結果、不登校児童の減少や、悩みを相談するための機関や方法の周知につながった。

令和3年度は、学校教育目標である「自他を大切に主体的に学び 生きる力をはぐくむ児童の育成」に基づき、これまでの研究の成果の上に「自分や他人の大切さを認める」という部分に重点を置き、令和5年度の研究発表会に向けて人権教育の研究を行った。

また、今後の未来社会を担う児童に、実生活や実社会今後の未来社会に対して、最適解を見出す力をつけさせるため、さいたま STEAMS 教育の研究に取り組み、各教科で授業実践を行ってきた。自分の気持ちを表現することが苦手な児童や、自分から行動することが苦手な本校児童が自分の課題を見出し、協働学習を通して自分を表現できることを目指し、令和5年度の研究発表会に向けて研究を行った。

2 指導実践について

(1) 第2学年図画工作科

第2学年3組 図画工作科指導案

令和3年11月16日(火) 第5校時

指導者 教諭 安岡 萌子

場所 音楽室

1 単元名 のりのりおはながみで

2 児童の実態と題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、絵を描いたり物を作ったりすることが好きな児童が多く、図工の時間を楽しみにしている様子が見られる。取りかかりに慎重になりすぎて時間がかかる児童もいるが、個別に支援することで思いをふくらませることができる。これまでに、一年生の「はって かさねて・・・」でお花紙を触ったり丸めたりする経験をしている。今回は、お花紙をちぎったり切ったりする活動をするため、お花紙の触り心地や重なった色の楽しさを体験させたい。

(2) 題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容A表現(1)イ及び(2)イを受けて設定したものである。今回は試したり見つけたりして、考えたり思いついたりする力を発揮させる活動である。お花紙に洗濯のりを染みさせて乾かすと透け感や手触りが変化することを念頭に置いて、

研究紀要

自分が好きな並べ方や重ね方を見つけていく。お花紙をちぎった形、はさみで切った形、折って切って広げた形などと、それぞれの色の美しさが織りなす構成を手の中で探り、最後に洗濯のりで固定して工作に表す題材である。

お花紙の触り心地を楽しみながら飾りを作る活動に楽しく取り組むとともに、作品を飾るを通して、お花紙の形や色の面白さに気付かせたい。

3 研究の視点とのかかわり

<研究主題>

自ら課題を見出し、協働学習を通して豊かに表現することのできる児童の育成

(1) STEAMS教育上の研究の視点

	視点① 自ら課題を見出すための工夫	視点② 協働学習を通して豊かに表現するための工夫
具体的な手立て	<p>ア たくさんの色のお花紙を用意し、色の重なりや、透け具合を十分に試せるようにする。</p> <p>イ お花紙をちぎった形、はさみで切った形、折って切って広げた形などがあることを提示し、実際に試すことで自分の好きな表し方を確認できるようにする。</p> <p>ウ 試しの時間に発見したことを活動を通して振り返ることができるように、教室の図工コーナーに掲示し、作品作りの手がかりにする。</p> <p>エ 自分の作品に合う場所を考えて貼ることができるようにする。</p>	<p>ア 想像力を豊かに働かせることができるようにするために、友達の作品と組み合わせて飾ることができるように見本を示す。</p> <p>イ 児童の想像力を豊かにするために、色のない島を準備しておく。</p> <p>ウ 他クラスや他学年の児童に作品のコメントを書いてもらうことで、自分では気が付かなかった、重なったお花紙の形や色の面白さに気付くことができるようにする。</p>

<研究主題>

自分の大切さとともに、他の人の大切さを認められる児童の育成

(2) 人権教育上の研究の視点

	視点① 自分の大切さを認める活動の工夫	視点② 他の人の大切さを認める活動の工夫
具体的な手立て	<p>ア 作った作品の良さについて友達と話す時間を設け、自分の作品の工夫したところを相手に伝えたり、相手の作品の良さを認めたりする活動を繰り返し経験できるようにする。</p>	<p>ア 自分の作品との違いや友達の作品の良さに気付くことができるよう、友だちの活動の様子を見合う時間を設ける。</p>

研究紀要

4 評価の観点及び評価規準

知識・技能	作品づくりやできた作品を飾ることを通して、触った感じの心地よさや、重なったお花紙の形や色の面白さに気付いている。
	お花紙の並べ方や重なり方をいろいろ試すなど、表したいことをもとに工夫して表している。
思考・判断・表現	お花紙を並べたり重ねたりしたときの色や形、触った感じなどをもとに表したいことを見つけ、どのように表すかを考えている。
主体的に学習に取り組む態度	お花紙の触り心地を味わいながら、飾りをつくる活動に楽しく取り組もうとしている。

5 単元計画

授業計画	ねらい ・主な学習活動	○指導上の留意点 ★STEAMS教育上の視点 ☆人権教育上の視点 評価
第1次 30分	<p>お花紙の手触りや重ね合わせた時の色の見え方はどんな感じかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> お花紙の肌触りを感じる。 お花紙を並べたり重ねたりしたときの色の違いを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> お花紙の裏と表の肌触りの違いや紙の柔らかさ、軽さを確認する。★視点①ア 図工コーナーの掲示から作品作りの手がかりを見つける。★視点①ウ 主材料の質感の変化に気付き、それを生かして作品づくりすることに期待感をもつ。
第2次 105分	<p>「2年3組島」にはどのような生き物がいるか考えながら、好きな色を組み合わせてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の説明で「2年3組島」には、どのような生き物がいるか想像する。 教師の説明で作り方を知る。 並べ方や切り方を試しながら、自分の好きな感じを求めてつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作り方の示範をする。紙目に沿って細かくちぎる。紙目に逆らってちぎるとうまくいかないことも示す。折ってはさみで切った形も加える。★視点①イ 児童の意見も聞きながら自分の想像する、島にあるものを構成する。 ☆視点②ア のり水は、最初ポタポタたらし、全体が落ち着いたら乾いた部分がなくなるまでかける。 思のりを垂らす直前まで形や色の構成を考え、自分が好きな構成を決める。

研究紀要

<p>第3次 45分</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">のり水を染みさせて、タオルで押さえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これでよし。」と決めたら、のり水を垂らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班に一つ程度、のりボトル、タオルを置く。 ○はじめは少量ずつ、あとから全体にのり水をかけさせる。 ○お花紙が乾いたままの部分には湿ったタオルを押しつけて染み込ませる。 知のり水をかけることによるお花紙の色の変化の面白さに気付いている。
<p>第4次 90分 (本時)</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">乾いたらビニルからはがして鑑賞しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニルからはがして、電灯や窓にすかして鑑賞する。 ・窓に貼って鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○はがすときは、お花紙をめくるようにはがすとちぎれやすいので、ビニルシートを後ろにめくるよう声がける。 ○友達の発表を聞いてよいところを見つけるようにする。☆視点②ア ○図工コーナーから、組み合わせると形になるものを見本として示す。★視点②ア ○あらかじめ窓に色のない島を貼っておき、自分の作った生き物は、どこに貼るか考えられるようにする。★視点①エ ★視点②イ ○貼り終わった児童には自分たちのエリアの良いところを発表できるよう声がける。☆視点①ア ○付箋を使って他クラスや他学年にもコメントしてもらうようにする。 ★視点②ウ 思お互いの良さを生かして2年3組島を作ろうとしている。 思形や色に光りという要素を加えて鑑賞し、自分や友達の作品の見方を深める。




6 本時のねらい

お互いの良さを生かして2年3組島を作ろうとする。

【思考・判断・表現】

研究紀要

7 本時の指導

児童の活動	指導上の留意点（・） 予想される反応（○）	・評価〈評価方法〉【観点】 ★STEAMS教育上の配慮 ☆人権教育上の配慮	時間
<p>1 自分の作品について紹介する。</p> 	<p>○「ぼくは〇〇を作りました。」 ○「〇〇にかざりたいです。」</p>	<p>☆友達の発表を聞いてよいところを見つけるようにする。☆視点② ア</p>	15
<p>2年3組じまを かんせいさせよう。</p>			
<p>2 音楽室の窓に貼って鑑賞する。</p> 	<p>○「窓がにぎやかになった」 ○「友達の作品とつなげたら大きくてもっときれい」 ○「かざる場所を工夫しよう」 ○「友達の作品とくっつけたら〇〇に見えてきた」 ・友達の作品のよさを見つけた児童を称賛する。 ・机間指導の際に発表する児童を決めておく。</p>	<p>★図工コーナーから、組み合わせると形になるものを見本として示す。★視点②ア ★窓に島を作っておき、自分の作品に合う場所を選ばせて貼れるようにする。★視点①エ ★視点②イ ☆友達の作品と比べることで自分の作品との違いや友達の作品の良さに気付かせる。☆視点②ア ・お互いの良さを生かして2年3組島を作ろうとしている。〈活動の様子・対話・ワークシート〉 【思考・判断・表現】</p>	20
<p>3 自分のエリアの発表をする。</p> 	<p>○「ぼくたちは〇〇に貼りました。貼る時に考えたことは〇〇です。くふうしたことは、〇〇です。」</p>	<p>☆貼り終わった児童には自分たちのエリアの良いところを発表できるように声がけする。☆視点① ア</p>	9
<p>4 次時の予告をする。</p>	<p>・次時の鑑賞につなげるようにする</p>	<p>★付箋を使って他クラスや他学年にもコメントしてもらうようにする。★視点②ウ</p>	1

【協議会まとめ 2年「のりのりおはながみで」】

研究紀要

(成果○と課題●)

- 子どもたちの作品への想い、作品を大切にしていることを再確認できた。
- 友達の良い作品のよさを生かして活動する姿がみられた。
- どこにどのように貼るか、自ら課題を見いだせた。
- 1人ではできない児童が友達の力を借りて表現することができた。
- 友達と作品を組み合わせることで、より豊かに表現することができた。
- 自分の作品が作品全体の一部として生かすことができた。
- クラスの中で、一つのストーリーを共有できた。
- 場の設定として、「空」にワンポイントがあるとより想定しやすかった。
- 作品の保存について、個人への返却がしにくい特性があり、難しかった。
- 実態によっては、エリアごとに小グループを作る際に手立てが必要だと思われる。
- 作品に対する想いが、他クラスや他学年の児童にはわかりづらく、付箋へのコメントにつながらなかった。

〈指導講評〉 指扇中学校校長 大河内 範一 先生

- ・子どもがそれぞれの想いを生かしながら活動しており、みんなで作り上げている様子がよかった。
- ・場の設定も全体が眺められていてよかった。海の中にワンポイント（わかめ）があったので、もう一つ空にも何かあると、より想定しやすかった。
- ・協働学習について、今回はこちら側でグループや人数等決めなかったが、パート別に分けることもできる。一長一短。
- ・貼りながら遊びを広げることを子どもに一番やってほしい。
- ・お花紙の良さは、色画用紙でできないことができる。（重ねる・丸める・ちぎるなど）濃淡や重なりを意識することもできる。ただ強度が弱いところがあるため、作品を長く残すものなのか、活動を中心にするものなのかを見極めることが大事。今回の場合はその後の記録として写真に撮る等して残しておく。鑑賞量と活動量は比例しなければならないため、児童の想いがある時間のかけた作品は、多くの鑑賞時間をとり、様々な人が触れる鑑賞を経てから取り外すとよい。
- ・「きれいだな」という感性を刺激させる体験をたくさんしてあげることで、色彩感覚や感性を高めることができる。

〈城北小の実践・指扇中の研修から〉

- ・技法を提示する場合は、たくさんの量を提示すること。1回素材を体験させることで、作品作りの時には落ち着いて活動することができる。

(2) 第3学年理科

第3学年3組 理科指導案

令和3年11月19日(金) 第5校時

指導者 教諭 丹後 依子

場所 3年3組教室

1 単元名 音を出して調べよう

2 児童の実態と題材設定の理由

(2) 児童の実態

本学級の児童は、理科の学習において、観察や実験に意欲的に取り組み、自由な発想で予想や仮説を立てる児童もおり、予想の発表では盛り上がることが多い。これまでの「太陽の光を調べよう」の学習では、日陰の地面と日向の地面の様子について、差異点や共通点をもとに、自分たちの言葉で学習問題や実験のまとめを考える活動を行ってきた。自分で学習の問題やまとめを考える活動に、積極的に取り組み、自分の言葉で表現することの楽しさを実感している児童もいる。一方で、自分の考えを表現することが苦手で、手が動かなくなってしまう児童もいる。こうした実態をふまえ、本単元では体験活動や児童の自由な意見をもとに、友達と意見を交流する中で、学習課題を立てる活動を通して、豊かに表現しようとする態度を育てることを目指していく。

(2) 題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領第3学年の内容A物質・エネルギーの(3)光と音の性質を受けて設定したものである。音を出したときの震え方に着目して、音の大きさを変えたときの違いを比較しながら、音の性質について調べる活動を通して、物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えているということや音の大きさを変えると震え方も変化するという音の性質について理解を図り、差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題を解決しようとする態度を育成することがねらいである。また、「音」という児童にとって身近な内容を扱う単元であり、これまでの生活体験や音楽科などの授業で学んだことをもとにして、問題をとらえやすい。日常生活との関連として、身の回りで音が出るものが、震えていることに気づかせたい。

3 研究の視点とのかかわり

<STEAMS 教育上の研究主題>

自ら課題を見出し、協働学習を通して豊かに表現することのできる児童の育成

(3) STEAMS教育上の研究の視点

視点① 児童が自ら課題を見出すことのできる授業づくり	視点② 児童同士が協働学習を通して、豊かに表現することのできる授業づくり
-------------------------------	---

研究紀要

具体的な手だて	<p>ア 体験的に問題をとらえる活動に時間をかけ、児童から実感を伴った表現を引き出す。</p> <p>イ 共通のキーワードになりそうな言葉を確認し、学習問題を立てる手がかりにする。</p>	<p>ア 班で話し合うときの視点を示し、自分の意見を表現しやすくする。</p> <p>イ 班で話し合う活動を通して、お互いの意見を交流し深め、自分の言葉を工夫したりしながら、表現させる。</p>
---------	--	---

<人権教育上の研究主題>

自分の大切さとともに、他の人の大切さを認められる児童の育成

(4) 人権教育上の研究の視点

	<p>視点① 自分や相手の考えを認め、大切にする授業づくり</p>
具体的な手だて	<p>ア 自分の意見を友達が受け止めてくれることで自分の意見が大切にされている実感をはぐくむ。</p> <p>イ 児童が考えた学習課題に対して、理科学的な考え方や視点の観点にとらわれず、児童の見出した過程を認める。</p>

4 評価の観点及び評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること、また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わること 音の性質について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 音の性質について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 音の性質について、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 音の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 音の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

5 単元計画

時数	ねらい ・ 主な学習活動	<p>○指導上の留意点</p> <p>★STEAMS 教育上の視点</p> <p>☆人権教育上の視点</p> <p>評価</p>
----	--------------	--

研究紀要

1	1 (本時)	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">音が出しているときの楽器の様子について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音を出してみ、音が出ているときと出ていないときの楽器の様子について話し合う。 ・気が付いたことをもとに、学習問題を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽器に触れる時間を十分にとり、差異点や共通点に気付かせる。★視点①ア ○音の性質にかかわるキーワードを確認し、学習問題を立てさせる。★視点①イ ○音が出ているときと出ていないときの違いについて話し合うことを明確に示す。 ★視点②ア ○学習問題においては、理科学的な考え方や視点の観点にとらわれず、児童の見出した過程を認める。☆視点①イ <p>思音を出す中で気づいたことや疑問に思ったことから、差異点や共通点を基に、音が出るときの物の様子について問題を見出し、表現している。</p>
2	2	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">音を出して、楽器が震えているか、調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアングルに付箋を貼り、音が出ているときの様子を観察する。 ・観察して気づいたことから、音と震えの関係についてまとめる。 	<p>知楽器などを正しく扱って、音を出し、音が出るときの様子を調べ、得られた結果をわかりやすく記録している。</p>
2	3	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">音が大きい時と小さい時の、楽器の震え方を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアングルに付箋を貼り、大きい音が出ている時と、小さい音が出ている時の様子を観察する。 ・観察して気づいたことから、音の大きさと震え方の関係についてまとめる。 	<p>思音の大きさと物の震え方との関係について、調べた結果を基に考察し、表現している。</p>
3	4	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">音が伝わる時、音を伝える物が震えているか調べよう</p> <p>音が伝わる時、音を伝えている物が震えているか調べ、まとめる。</p>	<p>知物から音が出たり伝わったりする時、物は震えていること、また、音の大きさが変わると物の震え方が変わることを理解している。</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・糸電話で声を伝え合い、音が出るときの物の様子について、学んだことをまとめる。 	<p>主音が伝わる時の物の様子について学んだことを生かして、離れた場所に声をつたえようとしている。</p>

研究紀要


6 本時のねらい

音が出る時の物の様子から、問題を見出し、自分の考えを表現している。 【思考・判断・表現】

7 本時の指導

児童の活動	指導上の留意点（・） 予想される反応（○）	【観点】 〈評価方法〉 ★STEAMS教育上の配慮 ☆人権教育上の配慮	時間 (分)
1 身の回りで音が出る物を探す。	<p>「これまでに演奏したことのある楽器にはどんなものがありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リコーダー ○鍵盤ハーモニカ ○タンバリン ○カスタネット ○鈴 ○トライアングル <p>・これまでに音楽科などで演奏したことのある楽器について尋ね、音を出した経験を想起させる。</p>	<p>★既習の学習や児童の生活体験を生かし、教科横断的な学習を行う。</p>	2
2 なぜ音が出るのか考える。	<p>「なぜ楽器は音が出るのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○たたくと音が鳴るから。 ○息を吹き込んで音を出している。 <p>「たたいていないときでも音が鳴っていることがあります、それはなぜでしょうか。」</p> <p>・実際に音を鳴らして見せることで、調べてみたいという意欲を高める。</p>		3
3 実際に音を出し、音を出しているときの物の様子について班ごとに調べる。	<p>「実際に音を出してみ、音が出ているときの楽器の様子と音が出ないときの楽器の様子を比べてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音を出しているときは音を出しているものが震えている。 ○音を出すと、物から振動が伝わってくる。 ○音を出していないときは、ふるえていない。 <p>・音が出ているときには物が震えていることに体感的に気付かせるため</p>	<p>☆友達の見解を聞くときは、「なるほど。」や「それ、いいね。」など認め合いながら聞くように指導する。</p> <p>★班での協働活動を通して、自由に意見を言い合えるようにする。</p>	1 2

研究紀要

<p>3 気付いたことを発表する。</p>	<p>に、教師が声掛けを行う。</p> <p>「音が出ているときといないときの様子を比べてみて、気付いたことはありますか。」</p> <p>○音を出しているときは、音を出しているものがふるえているけど、音が止まるとふるえているのも止まった。</p> <p>○楽器を持っている手に振動が伝わってきた。</p> <p>○大きな音だと、振動も大きい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような意見も学習の手掛かりになることを前提に、話し合ったことを自由に発表させる。 		5
<p>4 気づいたことをもとに、学習問題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人 ・班 	<p>「音と震えは関係しているようだけど、音と震えについてどのようなことを調べてみたいですか。」</p> <p>○「音」と「震える」という言葉を入れるといいと思う。</p> <p>○大きい音と小さい音の違いについて調べたい。</p> <p>○ほかの楽器でも実験してみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言から音と震えが関係していることを示唆しながら、自分たちの言葉で学習問題を考えさせる。 ・どのような学習問題を立てていたか今までの学習を想起させる。 	<p>★班ごとに疑問や気付いたことから課題を見出し、自分たちの言葉で表現させる。</p>	10
<p>5 班ごとに学習問題を発表する。</p>	<p>「班ごとに自分たちが立てた学習問題を発表しましょう。」</p> <p>○音を出しているとき、物はふるえているのだろうか。</p> <p>○大きい音と小さい音では、震え方にちがいはあるのだろうか。</p> <p>○どんな楽器でも、音を出すときはふるえているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの課題も順序をつけて取り組み姿勢を示す。 	<p>☆「調べてみたい」と声掛けをし、どの意見にも調べがいがあることを示す。</p>	5

研究紀要

6 今後の学習の見通しを立てる。	<p>「様々な学習問題が出ましたが、まずは音を出しているとき、物はふるえているのかを目に見える形で実験してみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見をまとめ、今後の学習問題と実験の見通しを立てる。 		3
7 振り返りをする。	<p>「楽器の様子の似ているところやちがうところを基に、これから調べる問題を考えることができましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音が出る時の物の様子から、自分たちで問題を見い出すことができたことを認め、声掛けをする。 	★課題を見出し、自分たちの言葉で表現することができたことを価値づける。	5

【協議会まとめ 3年「音を出して調べよう」】

〈成果○と課題●〉

- 音を出す前に担任の児童個人への配慮があつて良かった。
- 担任が児童の発言に対しての価値づけしていった
- 言葉ではないが児童がお互いに見守り、順番のリードをしていた。
- 児童が自分からいろんな楽器を鳴らし、音を出す体験ができていた。
- 意見をぶつけながら学習に取り組み、また更に視点を持ち豊かに表現しようとしていた。
- 児童同士において話型（モデル）相手を肯定するものがあつても良かった。
- グループ活動では、他の班のフレーズにイメージが追いついていなかったのか学習問題を立てるのにおしゃべりが出てきていた。
- 人任せではなく自分の意見をぶつけていける展開があつても良かった。

〈指導講評〉 教育研究所主席指導主事兼所長補佐兼理係長 紺野雅弘先生

- ・子どもたちが生き生きと活動し、思考していた。
- ・先生の関わり方が良かった。答えをすぐに言わず、「何故」、「なるほど」、「さすが」、「何で」等の声かけが大事。
- ・人権については音への配慮・児童の発言の関わり方・他者を認めていく事が鬼門。
- ・何故かを考えさせる姿勢を実施していった事が良かった。
- ・教師と児童が目線を同じにしていく事が良かった。
- ・楽器の選定は正解がない。違う例として、楽器を作っても良かった。楽器を作る等遊んでも良い。
- ・飽きてしまう児童への対応では、声掛けで意図する方法へ注目させる。また、様子を見て、やってみてどうだったか等、振動について触れても良かった。今度は、音と振動の関係していることを確かめようと流してもいい。

研究紀要

- ・振動をキーワードに音の大きさ、違いを皆で考えても良かった。児童の意見を大事にして材質についても取り上げていってもいい。解決できなかったことがあってもいい。理科から離れても良かった。
- ・学習問題作成場面では紙だと丁寧に書こうとする児童が居て、抵抗感があったのではないか。ホワイトボードの方が良かった。
- ・本時は、楽器をじっくり体験して終わっても良かった。身に付けなくてはいけないことは、振動、音の性質についてだから児童が納得できる形で進めていけると良い。
- ・児童が自己解決していく姿勢があつて意欲的で良かった。生活に目を向けさせることが大事。導入でたっぷり体験することがあつていい。

(3) 第6学年体育科

第6学年3組 体育科学習指導案

令和4年1月21日(金) 第5校時

指導者 山川 朋久

在籍児童数 41名

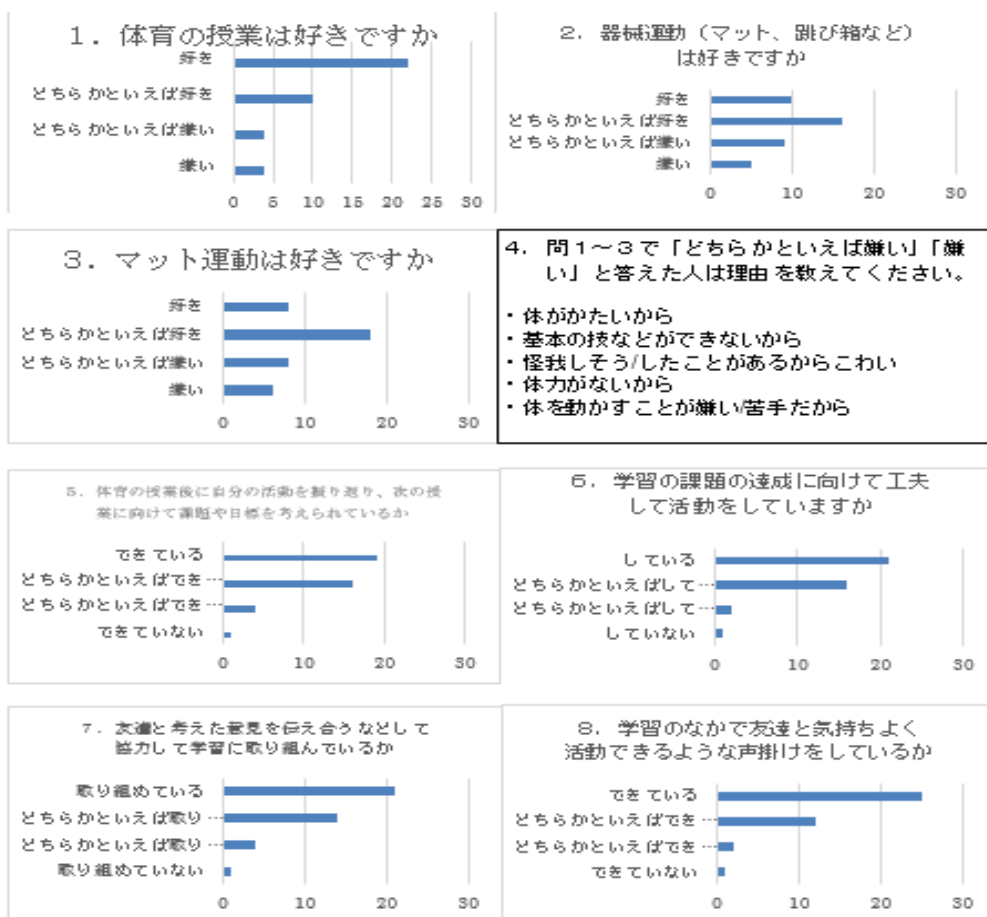
学習場所 体育館

1 単元名

マット運動

2 単元について

(1) 児童の実態



本学級の児童は、明るく活発な児童が多く、休み時間は外に出てサッカーや鬼ごっこをして遊んでいる。質問1～3からわかるように、体育や運動をすることに肯定的な回答をしている児童が全体的に多かった。一方で、運動することに苦手意識をもっている児童も数名いる。主な理由が質問4で挙がっていたが、特に「怪我しそう/したことがあるからこわい」ということを気にしている児童が多かった。これらの回答をした児童については、活動の約束を徹底したり、基本の技から確認したりすることのできる場面を設定し、安全に活動することのできる場づくりをする必要がある。

また質問5～7で、課題解決に向けて協働的に学習に取り組んでいるかを確認したところ、

研究紀要

多くの児童が学習の課題を意識して協力しながら学習に取り組んでいることが分かった。これまでの単元の学習においても、意欲的に周囲に声をかけたり、意見を交わしたりする様子が多くみられる。特に9月での跳び箱ではシンクロ跳びのグループ発表の練習の中でアドバイスや意見を交わすことのできる場を設定した。しかし、その中でアドバイスは抽象的な言葉（「もっと前にとぶんだよ」「もっと大きく動いた方がいいよ」など）が多く、できない児童からすると理解や実践が難しいものが多かった。そういった差を感じる場が生まれていることで協働的活動に苦手意識を持ち、アンケートの質問にも一定数否定的な回答をする児童がいるのではないと思われる。そのため、活動の中で目標とする動きや形を全体で共有し、具体的な意見やアドバイスをすることのできる手立てが必要がある。

(2) 単元設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の内容B器械運動の(1)アを受けて設定したものである。今回は安定した基本技や発展技に挑戦をし、児童が自身にあったものを選び組み合わせを考えながら演技をできるようにする活動になっている。

活動の最後にはグループで発表することを見通しとして持たせ、練習の中から意見交換をする場を設けることで児童が自身の技を客観的にとらえること、互いの動きを見て課題を発見することができるようにしていきたい。また、意見交換をする中で互いを認め合えるような声掛け、雰囲気作りをして学級の児童全体が運動に積極的に取り組めるようにしていきたい。

3 研究の視点とのかかわり

<研究主題> 自ら課題を見出し、協働学習を通して豊かに表現することのできる児童の育成
<研究主題> 自分の大切さとともに、他の人の大切さを認められる児童の育成

(1) STEAMS教育上の研究の視点

	視点① 自ら課題を見出すことのできる場の工夫	視点② 児童が生き生きと協働的に発表に取り組める単元の工夫
具体的な手立て	ア 児童が手本とする動画をタブレットで共有をしたり、児童が必要に応じて確認できる場を設定したりすることで児童が自身の課題を見出せるようにする。	ア 学級全体で見通しをもって取り組めるようにするために、学習計画を掲示し、各時間に活動内容を確認する。 イ 発表の構成を考える中で、ワークシートを用いて、技のポイントなどを自分で確認できるようにする。

(2) 人権教育上の研究の視点

	視点① 互いが気持ちよく活動に取り組むことのできる場の工夫
具体的な手立て	ア 体育の中で坐かせるふわふわ言葉を提示して共有したり、教師が率先して実践したりして意欲的に肯定的な言葉を使えるようにする。 イ ふわふわ言葉のほかに場面に合わせた言葉のかけ方を掲示しておき、児童が場面に応じて活用できるようにする。

4 単元における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行うことができる。 ② 基本技や発展技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。	① 自己の能力に適した課題を見つけている。 ② ペアやグループで観察し合って、見付けたことや分かったことを仲間やグループに伝えている。	① マット運動の基本的な技や発展技に積極的に取り組んでいる。 ② けがのないように、学習の仕方や約束を守り、仲間と協力しながら、服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全に気を配ったりしている。 ③ 観察し合い、分かったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に仲間の考えを認めようとしている。

研究紀要

5 単元の指導計画

時間	1	2	3	4	5	6	⑦	8
ねらい	・学習の進め方を知り、マット運動に対する意識を高めることができる。	・基本技の行い方を確認し、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行うことができるようにする。 ・発展技の行い方を確認し、自己の能力に適した新たな回転系や巧技系の技に挑戦できるようにする。		・発表に向けて、グループで互いの実態を知り、発表の構成を考えることができるようにする。	・グループ内で互いのできる技を確認し、発表に向けて技の組み合わせなど、構成を考えたり技の調整をしたりすることできるようにする。		・グループ内で互いの技を見合って技や発表の精進を高められるようにする。	・安定した技を意識して基本技や発展技の組み合わせを発表したり、鑑賞したりできるようにする
指導内容	・オリエンテーション ・学習計画づくり ・目標設定	・活動の仕方の確認 ・「安定した技」のポイント確認 ・個人で基本技や発展技の練習 ・練習した技の記録、ふりかえり		・「安定した技」の見方とアドバイスの仕方の確認 ・グループ練習	・発表に向けての約束の確認 ・各グループでの構成の確認、練習、調整 ・動画記録をして技の確認、振り返り		・これまで学習してきた「安全な活動」や「安定した技」、相手に見せる意識の確認	・最終発表会 ・鑑賞会
学習過程	1 導入で動画を見せてイメージをもたせる。 2 基本的な動きを共通ワードを活用して確認する。 3 学習を振り返る	1 課題を立てる 2 活動の行い方を確認し、安全に活動できるようにする。 3 全体で「安定した技」のポイントを確認し、練習する。 4 学習を振り返る。		1 課題を立てる 2 発表の仕方を確認する。 3 構成を考える。 4 学習を振り返る。	1 課題を立てる 2 グループ練習（友達と見合ったり、意見を交わしたりしながら調整や繰り返し練習をする） 3 学習を振り返る		1 課題を立てる 2 グループ練習 3 学習を振り返る	1 課題を立てる 2 グループで順番や構成、技の注意点などの最終チェックをする 3 発表・鑑賞する 4 学習を振り返る
ICT活用	動画共有 基本技要点共有	基本技・発展技要点共有 動画撮影での技の記録		技要点共有 技の記録	技要点共有 技・発表の記録		技要点共有 発表の記録	技要点共有 発表の記録
評価計画	知・技	1	1	2			2	1
	思・判・表					2	2	
	態	1	2・4	3		4		4
	方法	観察・ノート	観察・ノート	観察・ノート		観察・ノート	観察・ノート	観察・ノート
場面	3	3	2・3		2		2・3	3・4
研究の手立て	STEAMS①ア 人権①イ	STEAMS①イ 人権①ア		STEAMS①イ 人権①ア	STEAMS②ア 人権①ア、イ		STEAMS②イ 人権①ア、イ	STEAMS①イ

6 本時の指導（7／8時）

(1) 目標

○自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行うことができる。

【知識・技能】

○基本技や発展技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。

【知識・技能】

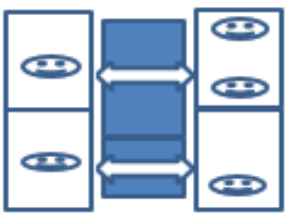
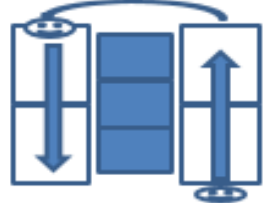


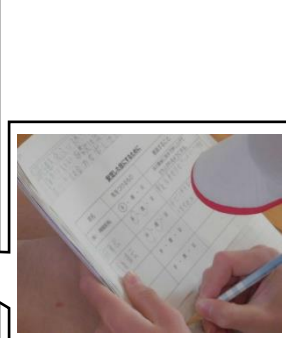
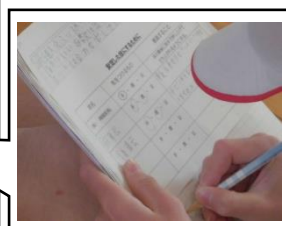
(2) 準備

・マット ・タブレットPC ・掲示資料

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 昇進 (・) ★STEAMS 観点上の視点 ☆人権観点上の視点	時間
1 整列、挨拶 準備体操	○あいさつ、返事を通して活動への気持ちを整えさせる。	3
2 場の設定	○安全面を意識することを確認してから準備を始める。	2

マットの配置

3	<p>めあての確認</p> <p>○「技の精度」と「発表の精度」を分けてポイントを確認し、児童に活動の中での着目点をとらえさせる。★視点②ア</p>	2
<p>太田小マッスルフェスティバル ～マット運動編～ の準備をしよう。 技や発表の「精度」を高めよう。</p>		
4	<p>パワーアップタイム</p>	5
<p><パワーアップタイムメニュー></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>・体幹・バランス技系 ゆりかご、V字バランス、ブリッジ 背倒立</p>  <p>※向かい合わせて手先、足先の意識を持たせる。 ※前後半交代制、待っている間はアドバイスをする。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>・回転技・倒立技 前転、後転（通常、開脚） 側倒立回転（側倒前転、補助側倒前転 側方側倒立回転、川跳びのい ずれか）</p>  <p>※行きは一回一回区切ってポーズをとる。 ※戻りは連続で行うことを意識して行う。</p> </div> </div>		
		
5	<p>個別の技の練習</p> <p>○どこを見てもらいたいかを意識するように声かけをする。 ○よい点、改善点を具体的なアドバイスをする。 ○必要に応じて手本の動画を確認をして自身の課題を確認させる。 ★視点①アイ ★視点①ア</p> <p>・自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、発着技に取り組んだり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。（知識・技能）</p>	1 2
		
6	<p>グループでの発表練習</p> <p>○タブレットで自分たちの動きを撮影して見返す中で、技や発表の精度を客観的に見て、課題点などを考えさせる。 ★視点②イ</p>	1 3
		
7	<p>撮影記録・確認</p> <p>○活動のできたことや課題点を確認し、次にどのような技にしていきたいかなど、次時への見通しを持たせる。</p>	5
8	<p>振り返り</p> <p>○発表に向けて、具体的にどのようなことを意識するのか、個人での目標や班での目標をもつようにする。</p>	3
9	<p>片付け</p>	3
10	<p>整理運動・挨拶</p>	2
		

【協議会まとめ 6年「マット運動」】

〈成果○と課題●〉

- 教師の明るい声掛けがよかった。子どもへの前向きな声掛けが教師自身もできていた。
- 待ち時間が少なく、活動量は十分であった。
- どんな事を意識して練習に取り組めばよいのか、一人ひとりが自身の課題を見出せていた。
- 時間の都合でグループの共同学習ができなかった。
- 子どもに課題の見つけ方をもっと教えたい。アウトプットすることが重要。

〈指導講評 城北小学校校長 西谷 健児 先生〉

- ・マットはできる、できないがはっきり分かれる。できない、嫌いを少なくするのが大切。「できなくても楽しい」、「見ているだけでも楽しい」を増やす。それを子どもに伝えていきたい。良い体育の時間には STEAMS と人権の視点は必ず必要。
- ・苦手な子は上手くアドバイスできない。マットが上手な子はアドバイスできる。先生は全員に回って声を掛けることが難しい。自ら課題を見出したり、アドバイスに役立てたりするために、タブレットを上手く活用したい。
- ・グループで発表することが共同学習につながる。

3 各専門部の取組

(1) 授業研究部まとめ

- ・活動報告
- * 研究授業の参観の視点を確認
→STEAMS 教育の視点、人権教育の視点、タブレット（ICT 活用）の視点
- * 研究協議会での協議方法の検討
→付箋を活用し、視点ごとの成果と課題を可視化した。



青色：STEAMS

黄色：人権

研究授業参観前にあらかじめ参観者に付箋を配付しておき、参観しながら記入できるようにした。

協議会では、台紙に付箋を貼りながら成果と課題について話し合った。

研究紀要

○成果

- ・研究協議会の行い方を共通にすることで、協議会の進行がスムーズになった。今後、さらに改良を重ねていき、授業者も参観者も意見交換がしやすく、学びの多い協議会にしていきたい。

●反省や課題

- ・研究授業指導案について、授業研究部でも事前に検討できるとよかった。
- ・STEAMS 教育、人権教育について教師自身が研修できる時間を充実させていきたい。

(2) 調査紀要部まとめ

・活動報告

調査紀要部では、人権教育のアンケートと STEAMS 教育のアンケートの 2 つのアンケートを行った。人権教育のアンケートは、「心と生活のアンケート」の項目の中から、今年度の研修にかかわるものを抽出した。STEAMS 教育のアンケートは、低・中・高学年で、それぞれ研究主題に沿ったものを作成した。指導を受けた児童の意識の変容を明らかにするために、授業前に 1 度、授業後に 1 度アンケートを行った。

【人権教育のアンケートの結果と考察】

人権教育について、全学年共通で以下のアンケートを行った。

- 1 私は、忙しいときに、友達に「手伝って」と言うことができます。
- 2 私は、自分のことばかり話をしないで、友達の話をしつくり聞くことができます。
- 3 私は、自分の気持ちや考えなどを、素直に言うことができます。
- 4 私の友達は、私の考えや意見をよく聞いてくれます。
- 5 私の友達は、私が困ったときに相談にのってくれると思います。
- 6 私には、信頼できる友達や家族がいます。
- 7 私は、自分のことが好きです。
- 8 私には、ほかの人にはない良いところが、いっぱいあります。

<低学年>

「3. 私は自分の気持ちや考えなどを素直に言うことができます。」「6. 私には信頼できる友達や家族がいます。」という質問に対して、肯定的な回答をした割合が授業前には約 30%であったのに対し、授業後に約 45%に増えた。また、質問 1、質問 4、質問 7、質問 8 についても授業前は約 53%だったのに対し授業後には約 61%に増えた。

以上の結果から、授業中に自分の作品の工夫したところをクラスメートに伝える時間や、クラスメートの作品のよさを伝える時間を取ったことによって、友達関係が良好になり、互いに対する信頼感が増して、クラス内での発言がしやすくなったことが分かった。

<中学年>

「3. 私は自分の気持ちや考えなどを素直に言うことができます。」という質問に対して、肯定的な回答をした割合が授業前には 50%であったのに対し、授業後に約 56%に増えた。また、「7. 自分のこ

研究紀要

とが好きです。」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は授業前では約47%であったのに対し、授業後には約57%に増えた。

以上の結果から、授業の中での教師の言葉かけや児童同士の認め合いの場面を設けることで、自分の考えを表現できるようになったり、自分のことが好きだと感じるできるようになったりと、自己肯定感が高められたことが分かった。

<高学年>

「3. 私は自分の気持ちや考えなどを素直に言うことができます。」という質問に対して、肯定的な回答をした割合が授業前には78%に対し、授業後には82%に増えた。また、「7. 自分のことが好きです。」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は授業前では66%であったのに対し、授業後には75%に増えた。また、質問1, 2, 4, 5, 6, 8についても、授業前のアンケートより授業後のアンケートの方が数値が増えていた。

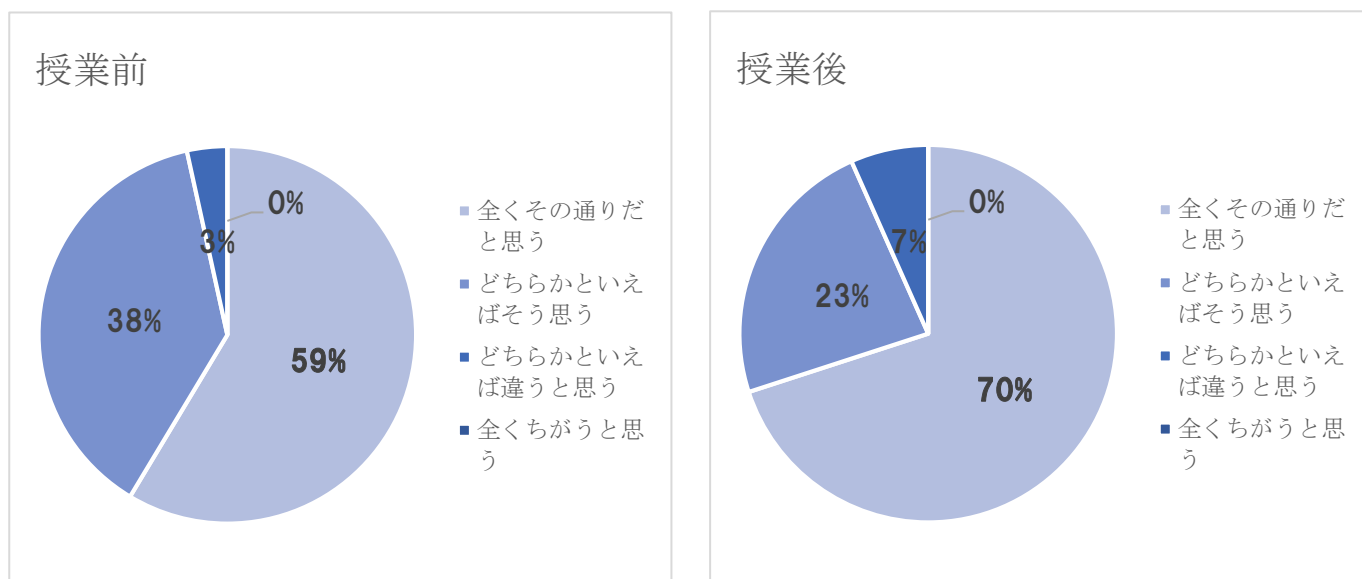
以上の結果から、授業の中で教師の肯定的な声掛けを積極的に行ったり、児童同士の認め合いの声かけを行ったりすることで自分の考えを表現できるようになった。また、自分のことが好きだと感じる児童が増え、自己肯定感が高められることが分かった。

【STAMS 教育のアンケートの結果と考察】

<低学年>

(結果)

① 「グループ活動の時に、自分の考えを友だちに伝えていますか。」



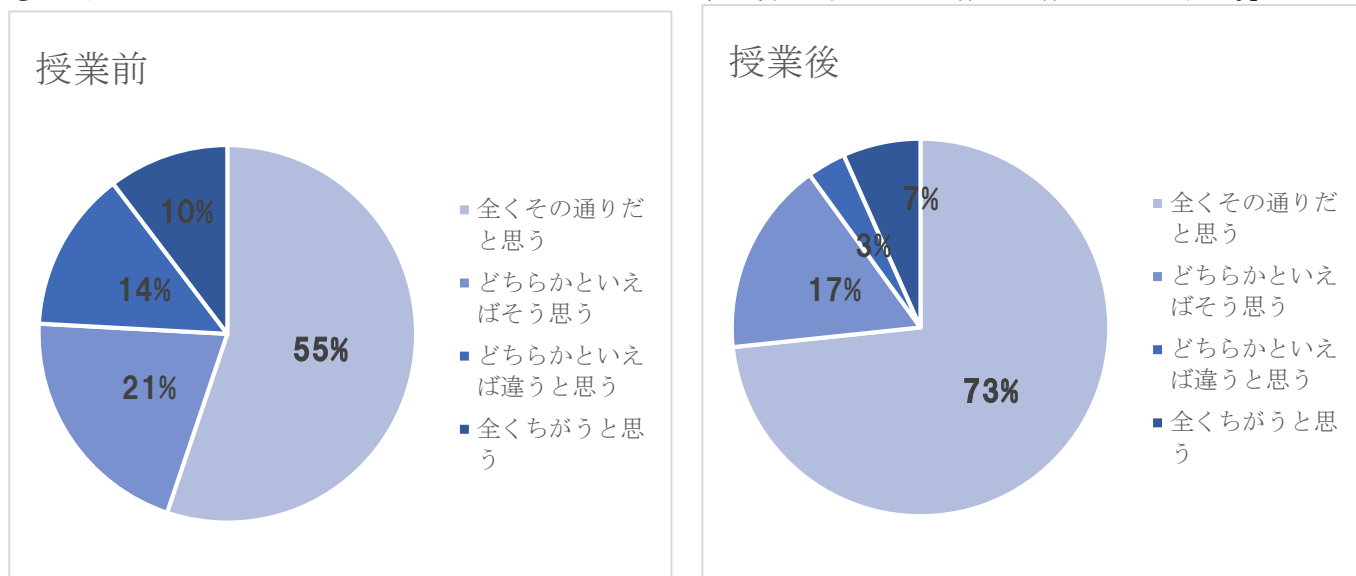
(考察)

授業前後を比較すると、「1 全くそのとおりだと思う。」と回答した児童が10%程度増加した。

「2 どちらかといえばそう思う。」から推移したことから、授業での活動を通して自分の考えを友だちに伝えていることに自信をもてたことが伺える。このことから、STEAMS教育の視点②ア、人権教育の視点①アの重要性がわかる。

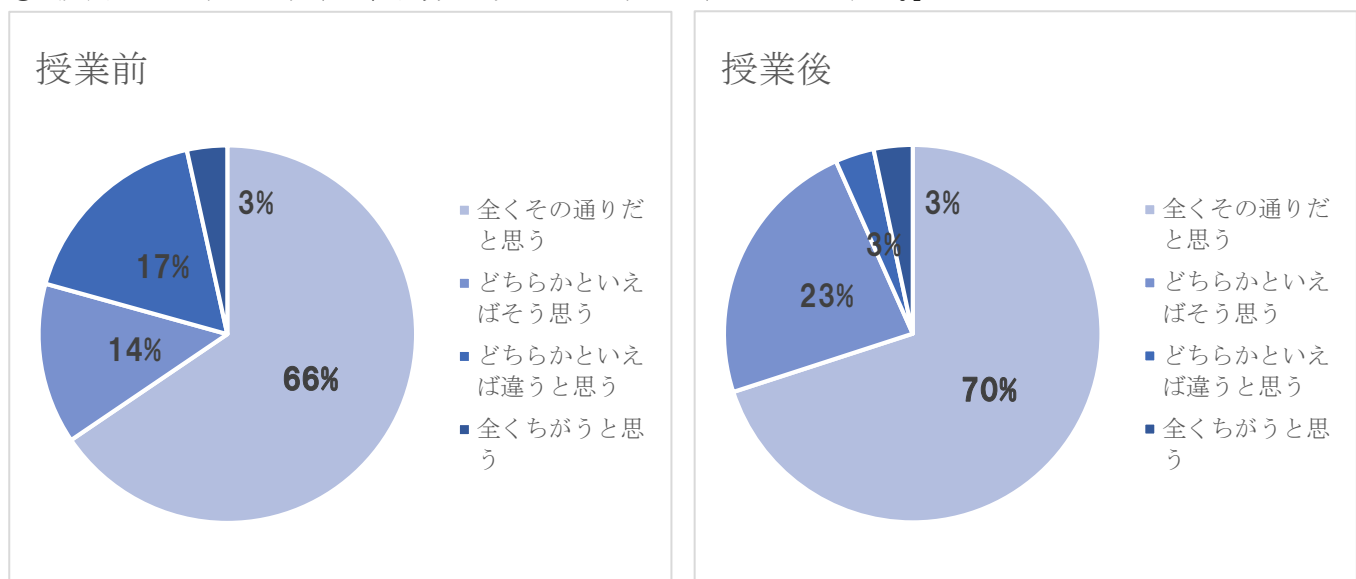
研究紀要

② 「友だちからのアドバイスやよいところをいかして、自分の考えている作品を作っていますか。」



授業前後を比較すると「3 どちらかといえばちがうと思う。」と回答した児童の割合が減少し、「1 全くそのとおりだと思う。」「2 どちらかといえばそう思う。」と回答した児童の割合が9割程度となった。このことから、自分の作品と友達作品と組み合わせる活動によって、友達との対話やアドバイスをいかしながら作品をつくる意識を高めたと考えられる。

③ 設問3 「じゅぎょう中に、自分の考えをくふうして伝えていきますか。」



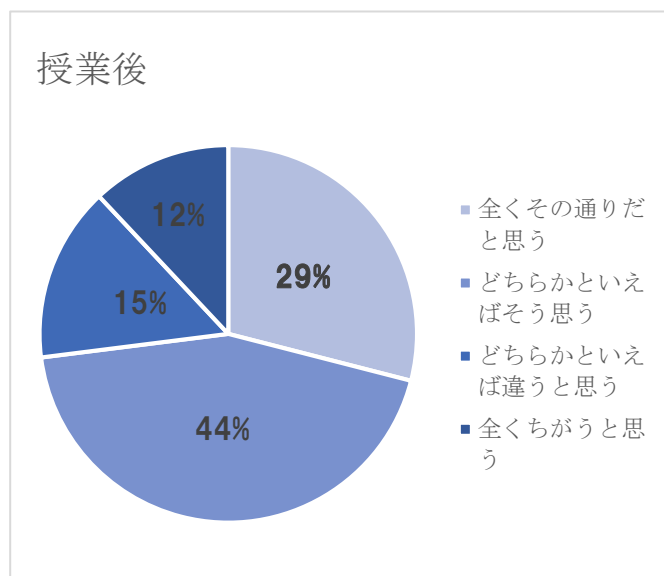
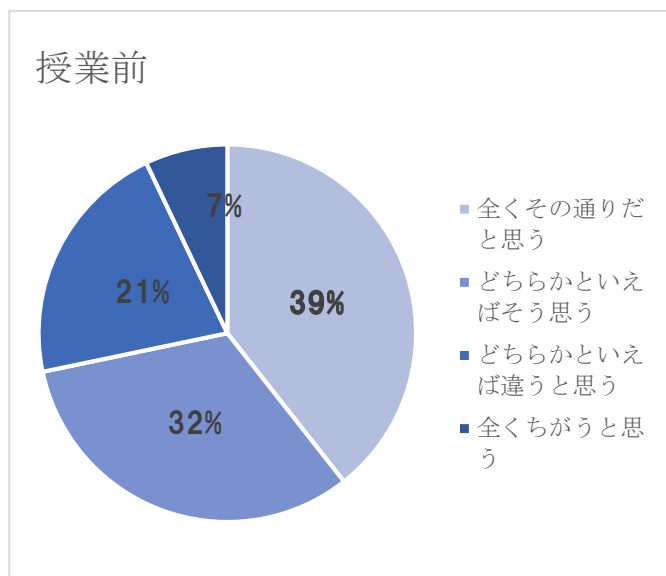
(考察)

授業前には、「3 どちらかといえばちがうと思う。」「4 全くちがうと思う。」と回答した児童が6名なのに対し、授業後には、2名に減った。自分の考えを作品について思いを伝えたり、窓に実際にかざして重ねたり、むきを変えたり、組み合わせを変えたりしながら協力して飾ったことで、多くの児童が自分の考えを伝えられたと実感できたことが伺える。

研究紀要

<中学年>

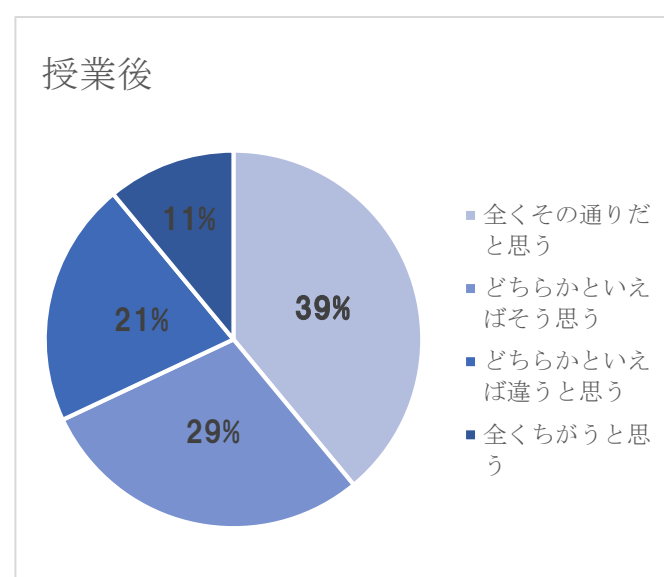
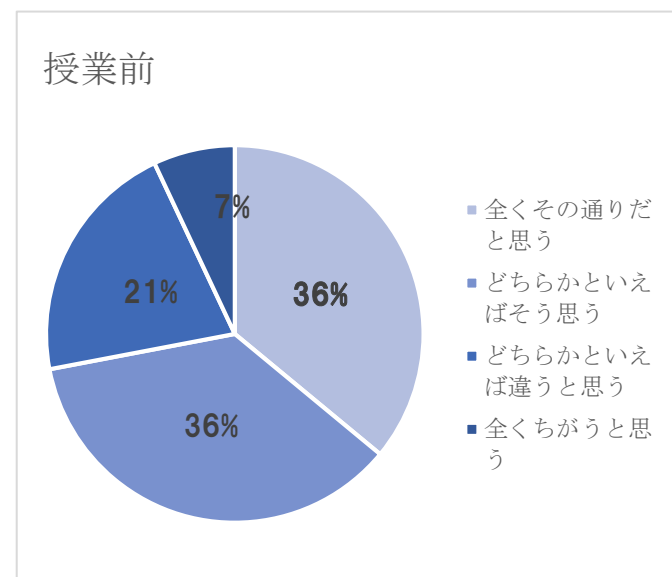
① 疑問に思ったことを調べてみたいと思いますか。



(考察)

研究主題の「自ら課題を見出し」を受けて項目を作成した。結果は、「全くその通りだと思う。」が減少し、「全くちがうと思う。」と答えた児童が増加した。このことから、児童の疑問に思ったことを調べようという意欲に差があり、必要な児童には調べる手段や調べ方を支援する必要がある。

② 疑問に思ったことを友達と話し合って協力して調べてみたいと思いますか。

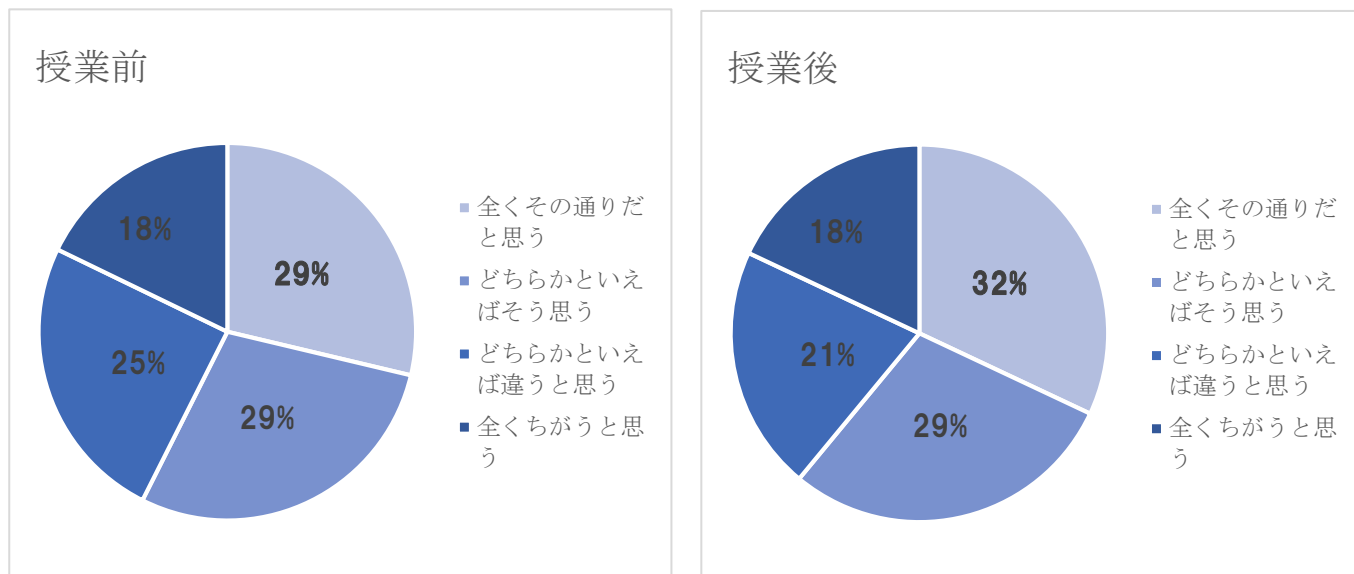


(考察)

研究主題の「協働学習を通して」を受けて項目を作成した。結果は、「全くその通りだと思う。」と「全く違うと思う。」の児童が増えた。今後の指導では、話し合い活動において一部の児童のみで進めることのないよう、留意することが必要である。

研究紀要

③ 調べたことを書いたり発表したりしたいと思いますか。

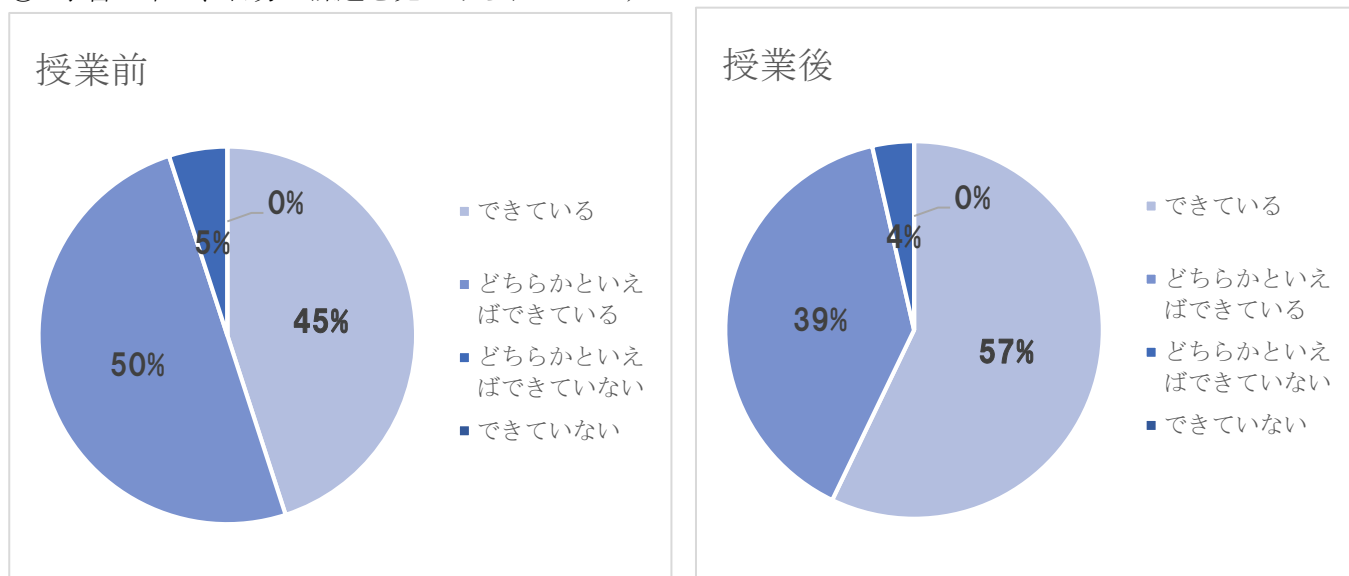


(考察)

研究主題の「豊かに表現する」を受けて項目を作成した。結果は、「全くその通りだと思う。」と答えた児童が増えた。以上の結果から、調べる活動を通して考えたことや感じたことが多くあったことで、自分の考えを表現することに意欲的になったと考えられる。

<高学年>

① 学習の中で、自分の課題を見つけられていますか

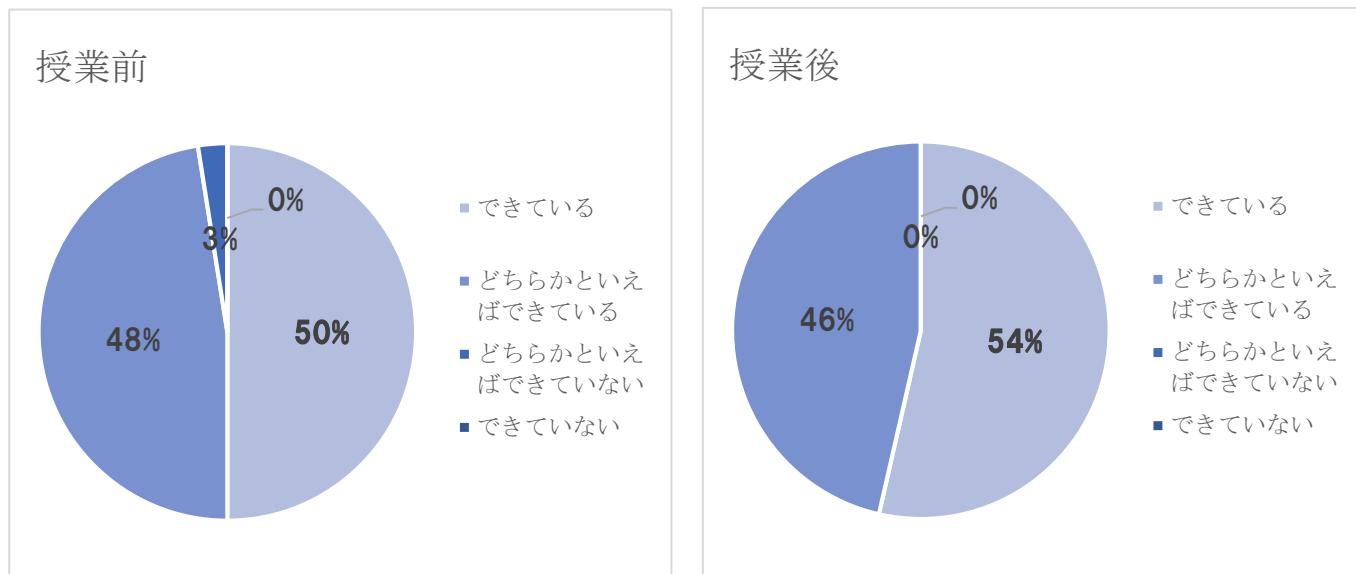


(考察)

研究主題の「自ら課題を見出し」を受けて項目を作成した。結果は、「できている」の数値が授業前と比べ12%伸ばすことにつながった。学習の中で、自身の改善点を具体的に挙げて取り組んだことが効果的であったと考えられる。

研究紀要

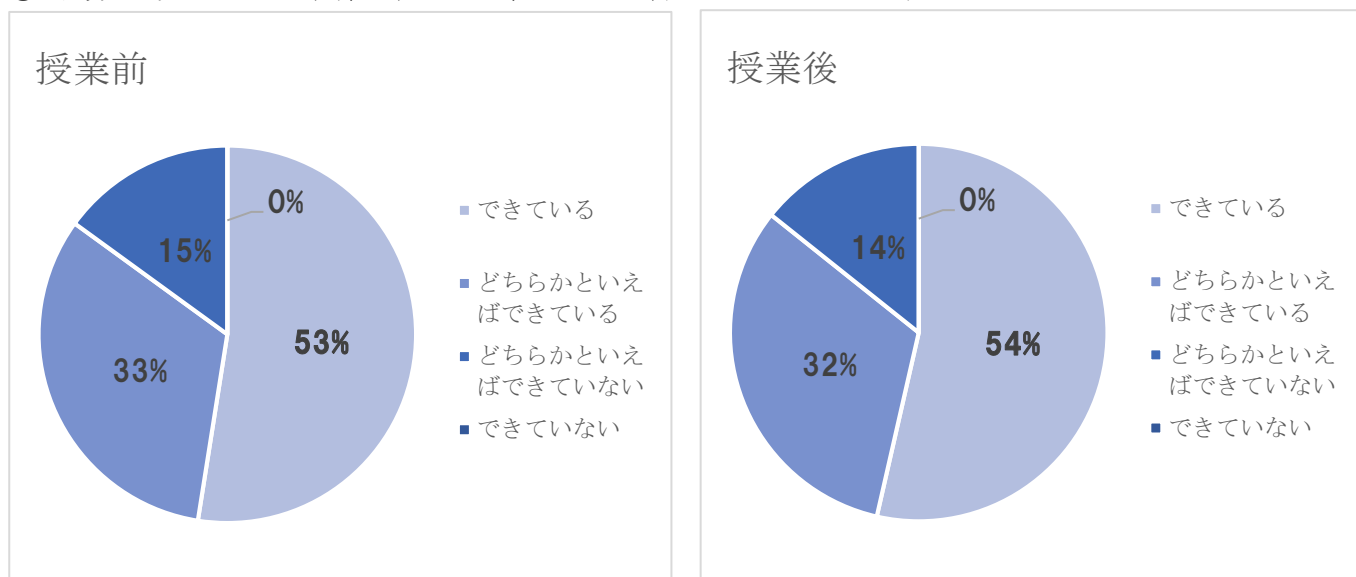
② 課題の解決に向けて、友達と協力して取り組んでいますか



(考察)

研究主題の「協働学習を通して」を受けて項目を作成した。結果は、「できていない」という回答を減り、「できている」の回答が増えた。学習の中で、自分の意見を発信する場と、意見を聞く場を設定したことが効果的であったと考えられる。

③ 自分の考えたことを言葉で伝えたり、ノートに書いたりできていますか



(考察)

研究主題の「豊かに表現する」を受けて項目を作成した。結果は、どの回答においてもほとんど変化は見られなかった。本質問に対し、「できている」「どちらかといえればできている」と回答した児童は8割ほどいたが、残りの児童の「どちらかといえればできていない」を感じる理由に寄り添い、表現の仕方を示すことに留意をしていく必要がある。

(3) 環境整備部まとめ

・活動報告

人権標語掲示による児童への啓発

＜各学級で取り組んだ人権標語を掲示＞

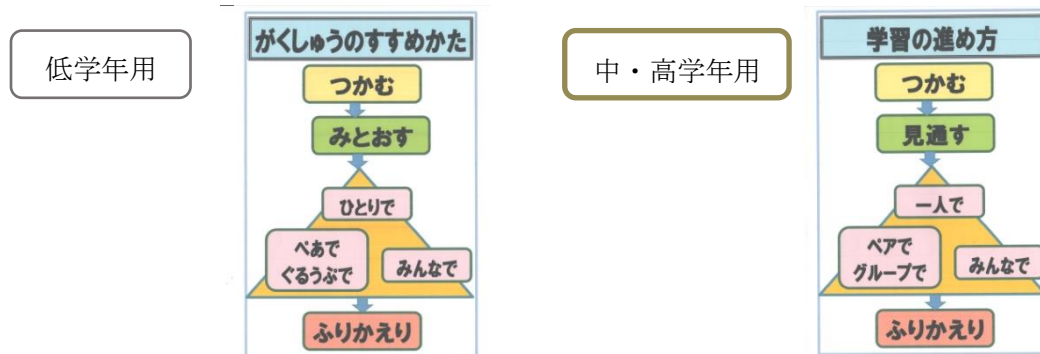


＜人権啓発標語、学年・学級代表の人権標語を掲示＞



STEAMS教育

＜「学習の進め方」の学級用掲示作成＞



○成果

- ・全校児童で人権標語に取り組み、全員の作品を掲示したことで、人権を尊重することの意識を高めることができた。
- ・アートステージに代表児童の人権標語を掲示したことで、興味をもって見ることができた。
- ・STEAMS教育では、「学習の進め方」の掲示を作成し、各クラスの学習で活用できるようにした。

●課題

- ・人権標語では、掲示をしたまま見直す機会がなかった。児童一人一人が標語に書いたことについて、掲示した人権標語の下に枠をつくり○を書いたり、シールを貼ったりするなど、学期ごとに振り返る時間があるとさらによかった。
- ・STEAMS教育で活用していく掲示物については、来年度以降、検討していく必要がある。

研究紀要

4 まとめ

- ・ 3つの教科で取り組んだことで、様々な視点で研究することができた。
- ・ 実態調査によって本校の児童の課題や傾向がより一層明らかになり、来年度の計画や視点が明確になった。
- ・ 学校内、教室内の掲示物の工夫に課題が見られた。来年度共通理解してから取り組めるとよい。
- ・ 児童同士が認め合える雰囲気を作れるよう、教師自身がポジティブな声かけを日頃から心がける必要がある。
- ・ 協働学習の体験を意図的・計画的に増やすため、単元計画を工夫する必要がある。